

早稲田大学審査学位論文  
博士（人間科学）  
概要書

教師の成長および学校の教育改善を両全する  
校内研修モデルの開発のための基礎研究  
A basic research project to develop  
the model of *Kounai-kenshu* that can support  
both teachers' growth and school improvement

2021年7月

早稲田大学大学院 人間科学研究科  
前田 菜摘  
MAEDA, Natsumi

研究指導担当教員： 尾澤 重知 教授

# 教師の成長および学校の教育改善を両全する 校内研修モデルの開発のための基礎研究

A basic research project to develop the model of *Kounai-kenshu* that can support both teachers' growth and school improvement

前田 菜摘 (MAEDA, Natsumi) 指導：尾澤 重知

## 1. 問題の所在

日本の校内研修は、校内の教師が1つの研究テーマのもとで授業を研究していく営為であり、教師の研鑽の場であると同時に学校組織の教育課題を解決する研究の場でもある。したがって、校内研修を十全に機能させることは、参加する一人ひとりの教師の力量を伸ばすだけでなく、学校全体の教育活動の改善・改革を行っていく上でも効果が期待されている。

しかしながら、実態としての校内研修は、長らくその形骸化が指摘されてきた。校内研修の果たす意義についての理論的な位置づけを明確にしていくことは、効果的な研修のマネジメントを考える上でも重要な課題と言える。

## 2. 先行研究と理論的枠組み

校内研修の中核を担うのが、「授業研究」である。校内研修や授業研究を扱う研究の多くは、共同で計画・実施（参観）・検討される「研究授業」のための協働場面を中心に扱ってきた。教師たちは、研究授業を共有する中で同僚と交流し、その過程を通じて自らの実践の見方を変容させたり、学び合う人間関係を構築したりすることによって実践を改善し、ひいては子どもたちの学習を改善させる。

本論文では、校内研修の中核を担う「授業研究」を、個別の教師が教室で経験する日常的な研究と研究授業の計画・実施・検討という学校組織の研究とが一体となって研究課題を追求していく断続的な過程として捉える。その上で、教師の成長を実践化と省察によるネットワークとして

理解する Clarke & Hollingsworth (2002) のモデルに、学校の研究としての発展性を組み込むことによって、学校の研究と教師の研究とが相互に展開しあう仮説モデルを提案する(図)。このモデルの上半分は、学校の研究主題に基づいて研究授業を実践化・省察する協働的な研究の場を表現しており、下半分は教師が日常的に行う教室実践における実践化と省察を表現している。個々の教師は研究授業を通じて協働構築した知識・信念・態度を自身の教室において実践化することによって、また、研究授業の計画・実施・参観の場に個人的な知識・信念・態度をもって参加することを通じて、この2つの場を統合した実践化と省察のネットワークを活性化させる。校内研修は、このネットワークの活性化により十全に機能し、学校と個別の教師の双方にとっての成果を生み出すと解釈できる。

## 3. 研究の目的と構成

本論文は、校内研修が個別の教師の成長と組織としての実践改善とを両全するものという前提に立ち、仮説モデル(図)に基づいて研究を行うことにより、校内研修の意義と課題を論じることを目的としている。

校内研修の多面的な意義は必ずしも現場の教師の間の認識と合致しているとは限らない。そこで、まず質問紙調査によって個別の教師がもっている校内研修に対する認識を尋ねた(4章)。次に、研究授業を重ねる中で研究主題を深めていくという学校の研究の過程を可視化するために、指導案検討の場を対象として、そこで使われた概念の変化から、教師集団の授業づくりに関する理解にどのような変化が生じているかを検討した(5章)。最後に、実際に教師が校内研修への参加を通じて学ぶ過程について、1年間を通してインタビューを行うことにより、個別の教師の視点から学校の研究活動と個人の実践との関連について探った(6章)。本論文は、これら3つの研究を含む全7章で構成される。

## 4. 校内研修に対する個々の教師の意味づけに関する研究

まず、実際に現場の教師が校内研修に対してどのような認識をもっているかを探るための質問紙調査を行なった。質問紙は、校内研修がもつ意味として想定される10の項目を設けて4段階で評価を求める尺度項目と、より包括的な

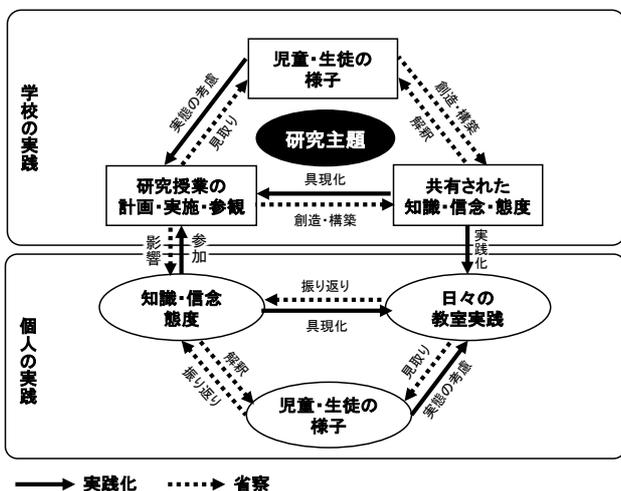


図. 教師の成長と学校改善を両全する校内研修の仮説モデル

イメージを尋ねるための比喩生成課題による自由記述式の項目の大きく2種類の質問によって構成された。

尺度項目と比喩生成課題のそれぞれについて分析を行い、その後、得られた知見について総合的に考察を行った。結果、校内研修に対する教師の認識として、学びの場としての意味は広く支持されている反面、研究としての意味や、日々の実践への意味については認識に個人差があることが分かった。また、教師が校内研修に対してもっているネガティブなイメージの背景には、研究授業の非日常性や、研究としての成果の不透明性があることが示唆された。

#### 5. 校内研修を通じた学校組織の学習に関する考察

校内研修は学校の組織レベルの学習に寄与すると考えられるが、組織としての知識創造を明らかにすることは容易ではなく、先行研究もほとんどない。そこで、テキストマイニングを用いることで、指導案検討の場面で教師たちが使っている概念を抽出し、その種類や内容の変遷から、教師集団の認知的な変化に迫ることを試みた。

その結果、検討場面で用いられた概念には、年度半ばを基点として増加と減少の過程が見られたほか、内容面についても、前半と後半では違いが見られた。このことは、1年を通して研究授業を重ねることによって、授業づくりに関する組織レベルの認知の変化があったことを示唆するものと考えられる。ただし、全体として教材解釈や教授方略に関する概念が中心を占めており、この協議会自体が、長期的な研究主題に基づいた議論というよりも、1時間の授業に焦点化した本時主義的な議論に留まっていた可能性については否定できない。

#### 6. 1年間の校内研修の取り組みを通じた教師の学びに関する研究

最後に、個別の教師の立場から、校内研修と教師の学習との関連を明らかにすることを試みた。2名の若手教師を対象とし、1年間にわたって、毎回の研究授業後に半構造化インタビューを行った。尋ねた内容は、「印象に残った話題や実践」「自身の経験や実践について思い出したこと」「検討会の中で話し足りなかったこと」「学びになったこと、活かしたいと思ったこと」「研究活動に対する思いや考え」などである。

インタビューで得られた内容をテーマ化し、時系列に整理して解釈を行った。結果として、2名の教師の学びには個性が見られるものの、ともに、自身の日常的な実践と学校の研究活動とを往還する中で学習している様子が示された。しかし、両名は、それぞれの置かれた文脈の中で自身の実践上の関心と学校の研究主題とを結びつけることに苦心しており、それには教師自身の力量の問題や制約となる環

境的な要因がかかわっていたと考えられる。

#### 7. 研究の総括

本研究により、仮説モデル(図)で示したような組織の実践と個人の実践が相互に関連しあう様子が示された。特に、6章での研究で得られた2名の若手教師の学びの様子は、仮説モデルによって説明できるものと考えられる。

一方、校内研修が抱えている課題もみられた。本研究で見出すことのできた課題もまた、仮説モデルにおけるネットワークの不全とみなすことにより、2つの問題に整理できると考えられる。

1つは、「日常実践との分断」である。これは、教師の日常的な授業研究の関心と校内研修で取り組まれる授業研究の関心が結びつかないことによるものと考えられる。本研究においては、4章の研究において見られた「日常との分断」に関するイメージや、6章の研究において若手教師2名それぞれが置かれている状況が校内研修への参加を難しくしていたことから解釈されるものである。

もう1つは、「研究の停滞」によって説明されるネットワークの不全である。これは、4章において「成果の不透明」に関するイメージが抽出されたこと、また、5章において見られた概念の変化が、必ずしも研究課題に沿ったものになっているとは限らなかったことから示唆されるものである。

この2つの問題は、いずれもすでに校内研修の課題として提起されてきたものであり、新しい指摘ではない。本研究の意義は、校内研修が学校改善と教師の学習との両全を志向するものとしてその関係をモデルに示すことによって、これまでも問題とされてきた状況を説明することのできる枠組みを提案したことにある。このことは、今後、校内研修の意義や効果を検討したり、現実には起きている問題状況を診断したりするための1つの視点となりうる。

しかし、本研究の成果はこの枠組みの可能性の一部を示したに過ぎない。現段階のモデルは学校組織の複雑性を捨象しており、また、研究主題が所与のものとされている点についても検討が必要である。今後は、学校がもつ組織構造の機能や、研究主題の設定過程といった点についても組み込みつつ、さらにモデルの検討を重ねていくことが求められる。

#### 参考文献

Clarke, D. & Hollingsworth, H. (2002) Elaborating a model of teacher professional growth. *Teaching and Teacher Education* 18: 947-967.